

乳幼児の事故防止プログラムの試案作成

(分担研究：小児の事故とその予防に関する研究)

田中哲郎¹⁾、山中龍宏²⁾、梅田勝³⁾、清水美登里³⁾、水田隆三⁴⁾、
杉山太幹⁵⁾、藤田之彦⁶⁾、大久保修⁶⁾、赤坂守人⁷⁾、斎藤歎能⁸⁾、
高野陽⁹⁾

要旨：乳幼児の事故防止を目的として、年齢による4段階の全般的指導項目、2段階の安全チェックシートの2つの試案を作成した。

安全チェックシートの質問項目としてはそれぞれ20項目選んだ。この試案をもとに、色々な場所、場面で安全教育、安全指導を行い、指導や教育効果を検討していく。

見出し語：事故予防、安全指導、安全教育、指導書、安全チェックシート

研究目的

我が国においては、戦後、公衆衛生の効上、小児医療の進歩により、乳幼児の死亡率の著明な低下がみられているが、近年低出生率、高齢化社会を迎えて、乳幼児の健全な育成が一層重要となっている。現在では、不慮の事故および有害作用が小児の死亡原因の首位にあり、年齢によっては、不慮の事故の死亡数が全死因に占める割合においても50%近くを占めている¹⁾。

また、欧米各国と比較しても、0～4歳の乳幼児の事故死亡率は高いのが現状である²⁾。

我が国が北欧並に事故防止に努め、同様の効果が上がるものと仮定すれば、毎年0～4歳の死亡数を900名近く減じられるとの試算³⁾も行われており、我が国においても、乳幼児の事故防止に積極的に取り組む必要がある。

そこで、本研究班では、米国等で行われている事故予防のプログラム⁴⁾を参考に、乳幼児の事故防止のプログラムの試案を作成した。

プログラムの使用法についての説明

本プログラムは、全般的な指導項目、安全チェックリストより成る。

本プログラムの使用方法としては、安全チェックリストを保健所、診療所で母親に記入してもらい、母親の安全に対する知識、実施度に関して不足しているものを知り、必要な項目について重点的に指導するものと考えている。

安全チェックシートは6ヶ月～1歳6ヶ月、1歳半より小学校入学前までの2段階、項目としては20項目選び出し、回答欄の右端に丸印がついているところが指導の重点項目であるようにシートを作成した。

- 1) 東京医科大学
- 2) 焼津市立総合病院
- 3) 和歌山県保健環境部
- 4) 京都第二日赤病院
- 5) 国民生活センター
- 6) 日本大学医学部
- 7) 日本大学歯学部
- 8) 横浜国立大学
- 9) 国立公衆衛生院

指導する場合に用いる資料として、年齢による全体的な事故防止のパンフレットを4段階作成した。

指導に関しては、地域の特性や各施設での指導に費やせる時間等によりアレンジするものとし、本テキストには標準的な方法を示した。

パンフレット、ビデオテープ、絵本、人形劇等を応用するのもよいと思われる。

この試案を作りかえて、指導効果のある方法をそれぞれ工夫していただくよう希望している。

内容

(1)全般的指導項目

- A) 新生児期～6ヶ月
- B) 7ヶ月～12ヶ月
- C) 1歳～2歳
- D) 3歳～6歳

(2)安全チェックシート

- A) 赤ちゃんの安全チェックシート (生後6ヶ月～1歳6ヶ月)
- B) 子供の安全チェックシート (生後1歳半～小学校入学まで)

文献

- 1) 厚生省大臣官房統計情報部：平成元年人口動態統計，下巻，平成2年。
- 2) 田中哲郎：小児期における不慮の事故死についての国際比較，日本医事新報，3359：30～34，昭和63年。
- 3) 田中哲郎：乳幼児の不慮の事故による我が国の超過死亡数－欧米各国の死亡率を基準としての試算，日本医事新報，3454：32～34，平成2年。
- 4) American Academy of Pediatrics: "Guideline for health supervision" and "The injury prevention program", 1985.

赤ちゃんの事故

(新生児期～6ヶ月)

子供を事故

から守ろう

我が国では、1歳未満の子供が事故のために毎年400人位死亡しています。死亡事故1にたいして死亡にいたらない事故は1,500倍以上発生していると推定されています。これらのうち1/2～1/3はちょっとした注意で防ぐことが可能です。

赤ちゃんは自分のまわりのもの全てに興味を示しますが、危険を予知することは全く出来ません。赤ちゃんの事故を予防するためには、お母さんの気配りと家族全員が事故予防の認識を深めることが必要です。赤ちゃんの事故は、お母さんや家族の責任といえるでしょう。

○転落

赤ちゃんは、成長するにつれて、突然寝返りを打ち、あらゆるところから転落するようになります。ベビーベッド、ソファ、おむつ交換台、椅子、ゆりかご、テーブルなどの高い場所に一人にしておいてはいけません。ベッドや階段、ベランダには柵をつけ、赤ちゃんが落ちる危険があるような所にはできるだけ近付けないでください。

赤ちゃんが落ちて、頭を打ったり、その後ぐったりしたり、あるいは手や足を動かさなかったり、動きがいつもと違う場合にはすぐに医師にかかって下さい。

○窒息

赤ちゃんの手の届くところには、ほんの一瞬でも指輪や安全ピンなどの小物、たばこ、ビニールの袋、長いひものついたおもちゃなどを置きっぱなしにしてはいけません。ピーナッツ、あられなど固い食べ物は食べさせてはいけません。これらの物は窒息の危険があるということを十分頭に入れておいてください。

窒息している子供を助ける方法も覚えておいて下さい。

大人の膝の上に子供をうつぶせにし、背中を強くたたきます。

○やけど

赤ちゃんが近くにいるとき、あるいは、赤ちゃんを抱いているときには、ラーメン、味噌汁、コーヒーなどの熱いものを決して食べたり、飲

んだり、運んだりしてはいけません。また、たばこの灰やストーブなどにも注意しましょう。

もし、赤ちゃんがやけどをしてしまったら、直ちに冷水をかけてください。軟膏などはぬらないでください。小さなやけどでも直ちに医師にかかって下さい。わずかなやけどでも受傷部位によっては将来、機能障害や美容上の問題になることがあります。

○熱射病・脱水症

昼間、赤ちゃんを自動車の中に置いたままにしないでください。また母乳やミルクを与え忘れてはいけません。赤ちゃんは、おとなに比べて必要とする水分量がずっと多いので容易に脱水状態に陥り、ぐったりします。

口から水分を補給できないときはすぐに医師にかかって下さい。

あなたの赤ちゃんの生命を
おびやかすもの

それはけがと事故です

赤ちゃんの事故

(7ヶ月～12ヶ月)

子供を事故

から守ろう

我が国では、1歳未満の子供が事故のために毎年400人位死亡しています。死亡事故1に対して死亡に至らない事故は1,500倍以上発生していると推定されています。そのうち1/2～1/3はちょっとした注意で防ぐことが可能です。

各種ワクチンの開発など予防医学の進歩、治療法の進歩、社会保障と環境の整備などもあって、生後1ヶ月をすぎると病気で亡くなる赤ちゃんは少なくなりました。赤ちゃんの命を脅かすものを考えると、現在では「事故」が最大の敵といえるでしょう。

乳児期の後半になると、赤ちゃんの動きも活発となり、突然、寝返りをうったり、はったり、手に触れるものをつかんだりします。お誕生近くになると、座ったり、物の上に這いあがったり、つかまりだち、ひとり歩きをはじめます。赤ちゃんの動きにお母さんがびっくりさせられることもあるでしょう。

乳児期の後半に多い事故は、異物誤飲、やけど、転落や転倒による頭部外傷と水の事故です。赤ちゃんにとっての家庭内での危険なものはなんでしょうか？放置されたタバコや医薬品、テーブルやベッド、階段、風呂場、ドア、ストーブやポット、ベビーカーや歩行器などです。

○異物誤飲

手に触れるものを口に持っていくのは、小さな子供の本能であることを覚えておいてください。1歳未満の乳児では特にタバコの誤飲が多いので、タバコ、灰皿は赤ちゃんの手の届かない所に置くようにしてください。

薬や小さな固形物の誤飲も多くみられます。

危険なものは必ず元の場所に戻し、赤ちゃんの手の届かない所に保管しましょう。強酸・強アルカリの洗剤は家の外や鍵のかかる所に保管しましょう。

異物を誤飲した場合は、直ちに指を喉の奥に入れて吐かせましょう。異物が胃に入った場合、特殊な化学製品以外は危険性は低いのですが、

気管に入ったときは窒息の危険があり、急いで病院に行く必要があります。いずれにせよ、異物誤飲では直ちに医師にかかるか、中毒 110番に電話して下さい。

(つくば中毒 110番 0298-52-9999、大阪中毒 110番 06-451-9999)

○やけど

小さな子供は何にでも触りたがります。ストーブなどのまわりは柵で囲んで下さい。アイロンやポットなどの置き場所に注意して下さい。テーブルや机の端に熱いものを置くのも危険です。

赤ちゃんを抱きながら、また、赤ちゃんの寝ているそばで熱いものを運んだり、飲んだり、食べたりしないで下さい。赤ちゃんをストーブやヒーターのそばに寝かさないことと、入浴の際の熱湯、給湯器の熱湯にも注意したいものです。

やけどの場合は直ちに水をかけて冷やして下さい。どんな小さなやけどでも直ちに医師にかかってください。わずかなやけどでも受傷部位によっては将来、機能障害や美容上の問題になることがあります。

○転落

子供の頭部の打撲はよく経験することです。事故死の原因として最も多いものは、転落や自動車事故による頭部損傷です。

乳児の頭部外傷はベッドや階段からの転落によることが多いので、目を離すときはベッドの柵を忘れずにあげること、階段に柵をつけることが大切です。玄関や縁側、テーブルや机、椅子からの転落にも気をつけましょう。

つかまり立ち、つたい歩きをはじめた頃はよく転ぶことを考えて、赤ちゃんの部屋には角の尖った家具や固い材質の家具を置かないようにして下さい。

また、赤ちゃんのそばでお兄ちゃんやお姉ちゃんを遊ばせないようにして下さい。

○溺水

我が国では外国に比べて、子供の溺死が多いことが知られていますが、特に家の中での水の事故が多いのです。

お誕生近くになると水の事故が増えてきます。池、川やプールの近くでは絶対に子供から目を離さないでください。風呂場の戸は必ず閉めて鍵をかける習慣をつけ、入浴時以外は風呂場に入入りさせないこと浴槽に残し湯をしないことが大切です。バケツや洗濯機の水も小さな赤ちゃんにとっては安全とはいえません。

溺水の場合は、まず水を吐かせますが、それよりも大切なことは呼吸状態の確認です。息をしていなければ直ちに口で人工呼吸を行い、心臓マッサージを行いながら救急車を呼びます。水に沈んでいた場合は、事故現場での応急手当ての成否が生死を左右しますので、すぐに大声をあげて人を呼び、人工呼吸を開始してください。

水を飲み込んだ場合は肺炎などを起こす危険があるので、ちょっとした間でも水に沈んだ場合や、咳こむようなら必ず医師にかかるようにしてください。

あなたの赤ちゃんの生命を
おびやかすもの

それはけがと事故です

子どもの事故

(1歳～2歳)

子供を事故

から守ろう

我が国では、1～2歳の子どもが事故のために毎年 650人近く死亡しています。死亡事故1に対して死亡に至らない事故は 1,500倍以上発生していると推定されています。これらのうち 1/2～ 1/3はちょっとした注意で防ぐことが可能です。

自分の子供が、現在どれくらいのことができるのかをよく認識していないことから事故は起こります。この年齢になると子供は歩きはじめ、走り、よじ登り、とびあがり、全てのものに興味を持つようになります。この年齢は一生のうちでも、最もけがの多い時期です。この年齢では自分で身を守ることは出来ません。あなたが守ってあげなければ、いつでも事故が起こりうることを肝に銘じておいてください。

○異物誤飲

この時期になると、子供は何でも口に入れてみるようになります。誤飲しやすいものとして、薬、化粧品、洗剤、防虫剤、タバコなどがあります。これらのものは、子供の手が届かない所にしまいましょう。

誤飲したとき、まず、飲んだ(食べた)ものは何か、量はどのくらいか、本当に飲んだかどうかを確かめることが大事です。

誤飲の処置は吐かせることです。気づいた時点で水か牛乳を飲ませます。それから喉の奥に指を突っ込んで、舌の奥を押し下げるようにして吐かせます。ただし石油類、強酸性、アルカリ性のものは吐かせてはいけません。

飲んで(食べて)も大丈夫なもの、様子を見ていいもの、少量でも危険なものを本などで知っておくとよいでしょう。危険性が判断できないときは中毒 110番に電話するか、医師にかかりましょう。

(つくば中毒 110番 0298-52-9999、大阪中毒 110番 06-451-9999)

○気道異物

ピーナッツがつかえて気管に入ると、取り除くのはたいへんで入院が必要となります。

ピーナッツを食べた後、はげしくせき込み始めた、むせて苦しがるな

どの症状がみられたらすぐ耳鼻科へ連れていきます。ピーナッツだけでなく豆類はむせやすいので、3歳までは与えないようにしましょう。

○転落・転倒

この年齢では、歩きはじめたばかりなのでよくころびます。また、階段や段差のある所では転落します。

危険な場所に通じる扉には、全て鍵をかけましょう。階段口には柵をつけ、子供がのぞきこめる窓には安全柵をつけましょう。

落ちたあと、ぐったりしている、名前をよんでも反応しない、吐くなどの症状があれば、すぐに病院へ行きます。

○やけど

家庭内でやけどをしやすい場所は、台所と風呂場です。午後6～7時頃におこりやすく、原因には、ポット、スープ、熱い食物、熱湯、やかん、オープン、なべ、コンロなどがあります。花火やアイロンなどでもみられます。台所で料理している時は、子供を囲いの中に入れておいた方が安全です。

食卓の上のお茶やコーヒー、うどんやラーメン、味噌汁なども危険です。子供がテーブルクロスをひっぱって、食卓にのっていたラーメンの熱湯をあびることもあります。沸きすぎた風呂の湯に落ちて大やけどをすることもあります。やけどをしたらすぐに水をかけ、痛みがとれるまで流水で冷やします。どんな小さなやけどでも直ちに医師にかかって下さい。わずかなやけどでも熱傷部位によっては将来、機能障害や美容上の問題になることがあります。

○溺 水

この年齢の子供は、水の中で遊ぶのが大好きです。湯ぶね、バケツの水、浅いプールなどで子供ひとりで遊ばせておくのは大変危険です。ほんの浅い水でも溺れることがあります。

一番危険な場所は風呂場です。風呂場で子供だけで遊ばせないようにし、風呂場の入り口の戸には鍵をかけるようにしましょう。また、浴槽に残し湯をしない習慣をつけましょう。

溺れたのを発見したら、まず水を吐かせ、呼吸していなければ人工呼吸と心臓マッサージを行い、救急車を呼びます。

○交通事故

交通事故は、子どもにとっても大変危険なものです。急停車の時に、子供の頭や体に衝撃が加わり重傷を負いやすいのです。こういう傷害や、事故死を防ぐ唯一の方法は、子供を車に乗せるときには、いつでもシー

トベルトを使うことです。必ず子供用のシートベルトを使って下さい。

あなたのお子さんの生命を
おびやかすもの

それはけがと事故です

子どもの事故

(3歳～6歳)

子供を事故 から守ろう

我が国では、3～6歳の子供が事故のために毎年 750人近く死亡しています。死亡事故1に対して死亡にいたらない事故は 1,500倍以上発生していると推定されています。これらのうち 1/2～ 1/3はちょっとした注意で防ぐことが可能です。

3歳以上になると、行動は活発になり、行動範囲も拡がり、転落、やけど、溺水、自動車事故などにあう危険性が高くなります。子供はまだ、何が危ないか十分にわかっていません。危険と安全について十分におしえてあげてください。

○転落

子供はこの頃になると、ボールを投げたり、跳んだり、走ったり、三輪車をこいだりすることができ、すばやく動くことができます。いろいろな能力が発達したので、家庭で、あるいは近所で、始終いろいろな危険に身をさらすことになります。ブランコや自転車から落ちたり、窓や階段をころげ落ちたり、どこかによじ登って転落したりします。

危険な場所がないように家の内外を点検してください。

階段には柵をつけ、窓の転落防止の手すりについても点検してください。高い所から落ちた時や頭を強く打った時は、医師にかかりましょう。嘔吐がみられたり、不機嫌な時は特に注意が必要です。

○やけど

食事の用意をしている時、台所は子供にとって危険な場所です。足元にいる子供に、熱い汁、油、熱い食べ物がかかって、ひどいやけどをしてしまうことがあります。こういう危険な時間帯には台所に近づけないようにしましょう。

アイロン、ヒーターなどの熱風の出口、オープンなどは、使い終わっても長時間熱を保持していて危険です。また、湯沸器の温度設定はあまり熱くしないほうが安全です。

子供がやけどをしてしまったら、直ちに冷水をかけて痛みが遠のくまで冷やして下さい。それから、やけどの部位を清潔なガーゼでゆるくお

おい、医師にかかりましょう。わずかなやけどでも受傷部位によっては将来、機能障害や美容上の問題になることがあります。

○異物、誤飲

子供はどの引き出しでも開けることができ、好奇心から、どこにでもよじ登ることができます。薬品は、是非とも必要なものだけを使い、子供の目も手も届かないところにしまっておきましょう。

もし子供が何か毒物を飲みこんだときには、かかりつけの医師か、中毒 110番にすぐ電話して、どうしたらよいか聞いてください。強い酸、強アルカリなどの化学製品、灯油等の揮発性の物質以外は、水や牛乳を 100～ 200ml 位飲ませ、子供の喉の奥へ指をつっこんで吐かせてください。

(つくば中毒 110番 0298-52-9999、大阪中毒 110番 06-451-9999)

○交通事故

この年齢の子供はもっとも交通事故にあいやすいので注意が大切です。

子供を道路で遊ばせないようにしましょう。

道を歩くときは必ず手をつなぎ、子供は道路の歩道側を歩かせるようにしましょう。

三輪車や自転車も、安全な場所でのみ遊ばせて下さい。

車に乗るときは必ず安全シートやシートベルトを使うようにしましょう。

○転倒・打撲

この年齢の子供はすぐにバランスを失って転倒します。

頭や体を強く打った時は医師にかかりましょう。打撲後24時間以内に嘔吐がみられたり、不機嫌な状態が続くときは特に注意が必要です。

○溺水

この年齢の子供では、特に水の事故に注意しましょう。浴槽、池、川、プールでの注意が必要です。

保護者なしで池や川、プールなどで遊ばせないようにしましょう。

あなたのお子さんの生命を
おびやかすもの

それはけがと事故です

赤ちゃんの安全チェック（生後6ヶ月～1歳6ヶ月）

（あてはまるところを丸印でかこんで下さい）

- | | | | |
|---|------|-----------|-----------------|
| 1. 赤ちゃんから目をはなす時は、ベビーベッドの柵をいつもあげていますか？ | いつも | ときどき | いいえ |
| | | （使用していない） | |
| 2. 赤ちゃんをテーブルやベッドに置いたまま一人でしておくことはありませんか？ | ない | ときどき | よくある |
| 3. 階段や段差のある所には赤ちゃんが落ちないような対策がしてありますか？ | はい | | いいえ |
| 4. 薬、タバコ、化粧品、洗剤などを赤ちゃんの手の届くような所に置かないようにしていますか？ | はい | ときどき | いいえ |
| 5. あなたの赤ちゃんはビーズや硬貨等の小さなもので遊ぶことがありますか？ | ない | ときどき | よくある |
| 6. 熱湯などを取り扱うときには、赤ちゃんに用心していますか？ | はい | ときどき | いいえ |
| 7. ストープ、アイロン、ポットなど、やけどの原因となるものに気をつけていますか？ | はい | ときどき | いいえ |
| 8. 熱いお茶やコーヒーの入ったカップ、カップラーメンをテーブルの端に置くことはありませんか？ | おかない | ときどき | よくおく |
| 9. ピーナッツなどの小さな豆類を食べさせることがありますか？ | ない | ときどき | よく与える |
| 10. ビニール袋や紙袋や風船などを赤ちゃんの手の届く所に置かないようにしていますか？ | はい | ときどき | いいえ |
| 11. 家に消火器を備えていますか？ | はい | | いいえ |
| 12. 火災のときに、家から逃げるための計画をたてていますか？ | はい | | いいえ |
| 13. 壁にかけてある額などが落ちないようにしてありますか？ | はい | | いいえ |
| 14. お兄ちゃんお姉ちゃんに、赤ちゃんの世話を頼むことがありますか？ | ない | ときどき | よくある
(ひとりっ子) |
| 15. 家の中に赤ちゃんを一人置いて出かけることがありますか？ | ない | ときどき | よくある |
| 16. お風呂場の入り口の戸に鍵をかけるようにしていますか？ | いつも | ときどき | いいえ |
| 17. 浴槽に水をためておくことがありますか？ | いいえ | ときどき | いつも |
| 18. 赤ちゃんをお風呂場で遊ばせることがありますか？ | いいえ | ときどき | いつも |
| 19. 自動車に乗せるとき、小児用のシートベルトつき座席を使っていますか？ | はい | ときどき | いいえ |
| 20. 車の中に赤ちゃんを一人で置いておくことがありますか？ | ない | ときどき | よくある |

子供の安全チェック（1歳半～小学校入学まで）

（あてはまるところを丸印でかこんでください）

- | | | | |
|--|-------|------|-------|
| 1. 薬、タバコ、マッチ、刃物などを子供の手の届くところにおいていませんか？ | な い | ときどき | よくある |
| 2. 古い薬や家庭用化学製品の空になったビンなどはすぐに捨てていますか？ | は い | ときどき | いいえ |
| 3. 誤飲した場合の処置を知っていますか？ | は い | 少しだけ | いいえ |
| 4. ピーナッツなどの小さな豆類を食べさせることがありますか？ | な い | ときどき | よくする |
| 5. 階段や段差のある所には子供が落ちないような対策がしてありますか？ | は い | | いいえ |
| 6. ベランダには、踏み台となるような物を置いていませんか？ | 置いてない | | 置いている |
| 7. あなたは子供と自転車に相乗りしますか？ | しない | ときどき | よくする |
| 8. 自動車に乗せるとき小児用のシートベルト付き座席を使っていますか？ | は い | ときどき | いいえ |
| 9. 車の中に子供を一人でおいておくことがありますか？ | な い | ときどき | よくある |
| 10. 三輪車や自転車の安全な乗り方を教えましたか？ | は い | | いいえ |
| 11. 道を歩くとき、歩き方や信号について教えていますか？ | は い | | いいえ |
| 12. 子供が遊んでいるとき、まわりの安全について確認していますか？ | いつも | ときどき | いいえ |
| 13. ストーブ、アイロン、ポット、鍋など、やけどの原因となるものに気をつけていますか？ | いつも | ときどき | いいえ |
| 14. 熱いお茶やコーヒーの入ったカップやカップラーメンをテーブルの端に置くことはありませんか？ | おかない | ときどき | よくおく |
| 15. 家に消火器を備えていますか？ | は い | | いいえ |
| 16. マッチやライターを子供の手の届かない所に置いていますか？ | は い | ときどき | いいえ |
| 17. 壁にかけてある額などが落ちないようにしてありますか？ | は い | | いいえ |
| 18. お風呂場の入り口の戸に鍵をかけるようにしていますか？ | いつも | ときどき | いいえ |
| 19. 子供をお風呂場で遊ばせることがありますか？ | いいえ | ときどき | いつも |
| 20. 監視なしで、子供を川や池、プールで遊ばせることがありますか？ | いいえ | ときどき | よくある |



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要旨:乳幼児の事故防止を目的として、年齢による4段階の全般的指導項目、2段階の安全チェックシートの2つの試案を作成した。

安全チェックシートの質問項目としてはそれぞれ20項目選んだ。この試案をもとに、色々な場所、場面で安全教育、安全指導を行い、指導や教育効果を検討していく。